

自然教室だより

5月・新緑のならやま自然観察会報告

辻本 信一

平成 29 年 5 月 16 日 (火) 野草観察のみならず自然観察には絶好のシーズンを迎え、この日は 17 名の方がならやまの観察会に参加して下さいました。題して「新緑のならやま自然観察会」。

私たちの活動の場である「ならやま」で身近な植物に親しもうと同好の士が集まり、楽しい観察会の始まりです。最初に訪れたのは普段車で何気なく通り過ぎてしまう 24 号線東側の側道。そこではいきなりマンテマに似た薄紫色の花に遭遇。運良く近くに「シロバナマンテマ」もあり両者の比較ができました。萼片にマンテマ特有の 10 本の線は【イヌコモチナデシコ】ないものの姿形はよく似ています。答えは「イヌコモチナデシコ」。参加者の一人が「マンテマ似の花」でスマホ検索。すぐに答えが分かりました。最近よく見かける帰化植物だということも判明しました。



そのすぐ横では垂れ下がった小穂が小判にも俵にも見える「コバンソウ」が一面に咲き誇っていました。同じイネ科のネズミムギは雄花から黄色い葯をのぞかせこれも今は盛りと咲いています。

更に大きく豆果を実らせたカラスノエンドウ。

勿論、童心に返りみんなで笛を作り「鳴った」、
「鳴らない」で一喜一憂。楽しく遊ばせていただきました。



【四阿で午前中の振り返り】

その後もサイクリングロード沿いに次々と野草を観察。昼食前には戻ってきたベースキャンプの四阿（あずまや）で午前中に観察した（下記の）植物の振り返りの時間を持ち、その特徴を紹介し

あいました。

アレチギシギシ、コマツヨイグサ、クララ、コウゾリナ、セイヨウカラシナ、ニガナ、ヌカススキ、ノミノツヅリ、ノボロギク、ハルジオン等々

昼食後はサイクリングロード沿いを梅林から「彩りの森」へと進みました。意外とここも野草の宝庫、次々と珍しい植物に出会い、ジックリと



観察する事ができました。【彩りの森に行く】

昔はおかみさんたちが根っこを薬問屋に卸し、「へそくり」を作った「ヘソクリ」の別名のある「カラスビシャク」。こちらは「ウラシマソウ」に似た仏炎苞を持つテンナンショウの 1 種。花の開花はまだ先ですが、特徴的な三出葉がよく目立ちました。また、キンミズヒキの複葉は比較的大きな小葉の間に小さな小葉が入る特徴のある姿を私たちに披露してくれました。「ジャガイモの葉もこのような葉のつけ方をするのだ」と参加された倉田さんからお聞きしました。【キンミズヒキの複葉】



午後に観察した植物：

タチイヌノフグリ、ツボミオオバコ、コナスビ、ガガイモ、レンゲ、オニノゲシ、ムラサキサギゴケ、トキワハゼ、カスマグサ、スズメノエンドウ、コメツブツメクサ、ヘビイチゴ、アケビ、ハハコグサ、チチコグサモドキ、アメリカフウロ、ヤブガラシ、オオジシバリ、ジシバリ、ヒメコウゾ、キキョウソウ、トウバナ等々

今回も色々な発見があり楽しく有意義な観察会となりました。ご

参加いただいた皆様、ありがとうございました。ご参加いただかなかった皆様も次回は是非お仲間入りください。



【集合写真：ハイポーズ】